

# パイロテルを用いたゲル化法

λ: 0.03EU/mLのライセート試薬 (パイロテル マルチテスト/シングルテスト) および試料溶液 (10倍希釈液) を用いる標準操作法を示します。

## ■ 必要な試薬および器具

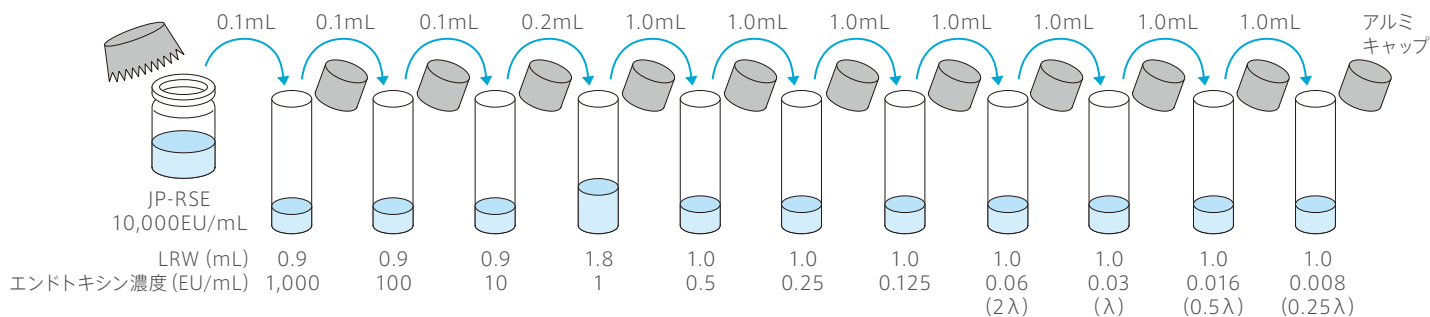
試薬	<ul style="list-style-type: none"> <li>ライセート試薬: パイロテル マルチテスト/シングルテスト</li> <li>標準品: 日本薬局方エンドトキシン標準品 (以下、JP-RSE)</li> <li>LAL試験用水 (以下、LRW)</li> <li>緩衝液: グルカシールドまたはパイロソル</li> </ul>
器具	<ul style="list-style-type: none"> <li>トキシペットサンプラー200、トキシペットサンプラー1000</li> <li>可変式連続分注器「MODEL8100」 (株式会社ニチリョー)</li> <li>トキシペットチップ200、トキシペットチップ1000</li> <li>トキシペットディスペンサー用シリンジ (以下、シリンジ)</li> <li>乾熱滅菌試験管 (アルミキャップ付、以下、試験管)</li> <li>パイロチューブ アルミキャップ付 (パイロテル マルチテスト用: 10×75mm、以下、パイロチューブ)</li> <li>乾熱滅菌アルミキャップ (以下、アルミキャップ)</li> <li>乾熱滅菌アルミ箱 (以下、アルミ箱)</li> <li>試験管ミキサー</li> </ul>
ドライブブロックバス	<ul style="list-style-type: none"> <li>LAL試験用サーモアルミバスセット</li> </ul>

## ■ 標準操作法

### 1 標準溶液および試料溶液等の調製

#### 1-1 エンドトキシン標準溶液の調製

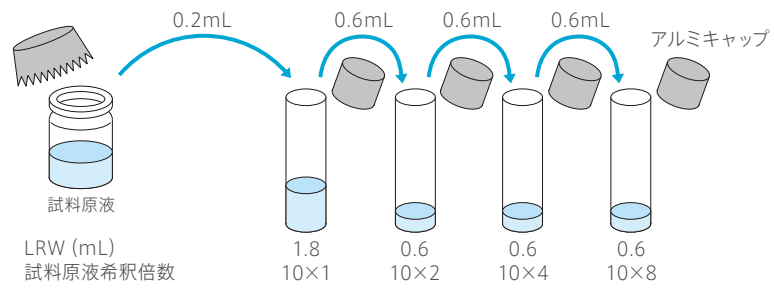
- エンドトキシン標準原液 (10,000EU/mL) (p.3参照) を試験管ミキサーで1分間攪拌する。
- LRWを用いて10倍段階希釈を繰り返し、1.0EU/mLを調製する。
- さらに、下図のように2倍段階希釈を繰り返し、ライセート試薬の表示感度確認試験ならびにC液用のエンドトキシン標準溶液 [0.06 (2λ), 0.03 (1λ), 0.016 (0.5λ), 0.008EU/mL (0.25λ)] を調製する。  
 ・段階希釈では各1分間試験管ミキサーで攪拌してください。



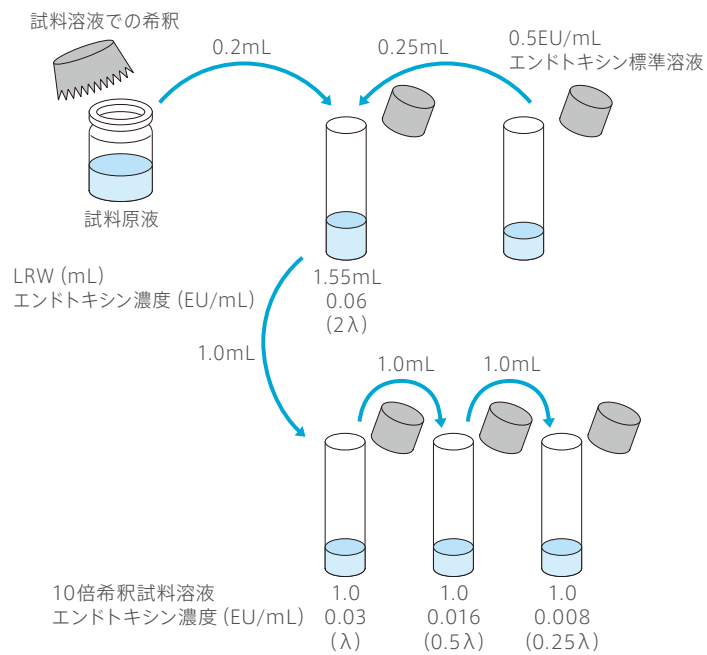
添加量 (mL)	エンドトキシン濃度 (EU/mL)											
	10,000	1,000	100	10	1	0.5	0.25	0.125	0.06 (2λ)	0.03 (1λ)	0.016 (0.5λ)	0.008 (0.25λ)
JP-RSE	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
LRW	0.9	0.9	0.9	0.9	1.8	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0

## 1-2 その他の試料溶液の調製

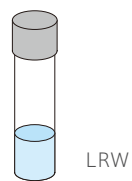
### (1) A液の調製



### (2) B液の調製



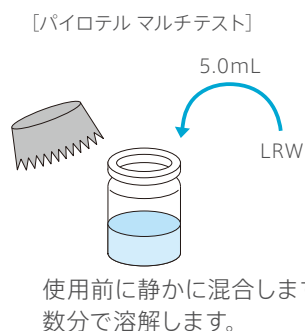
### (3) D液の準備



### 1-3 ライセート試薬の準備

予備試験：ライセート試薬の表示感度確認試験	16本
反応干渉因子試験	30本
限度試験法：	8本
定量試験法：	20本

(1) 下図に従い、必要本数分のライセート試薬を準備する。

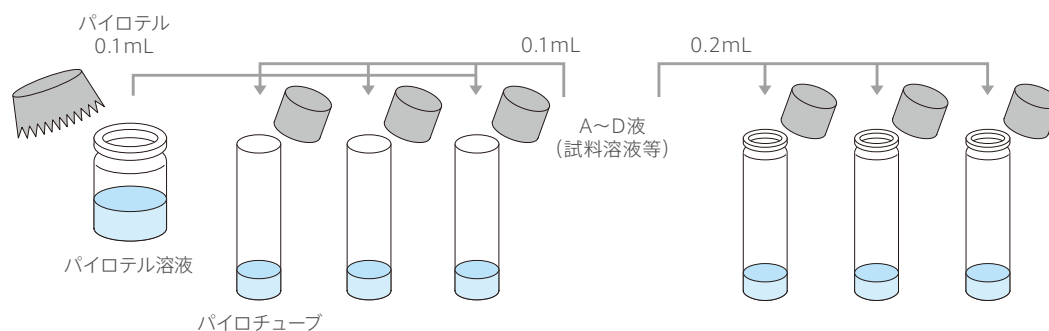


### 1-4 試料溶液等の添加

(1) 下図に従い、試料溶液等を添加する。

[パイロテル マルチテスト]  
A～D液の0.1mLずつをトキシペットチップ200でパイロチューブに分注した後、溶解したパイロテル0.1mLずつをシリンジ等で添加します。

[パイロテル シングルテスト]  
A～D液の0.2mLずつをトキシペットチップ200で添加します。



### 1-5 加温

- (1) アルミキャップで蓋をし、試験管ミキサーで1～2秒間攪拌する。
- (2) ドライブロックバスで37 (±1) °C、60 (±2) 分間静置する。
  - ・加温中は振動を与えないように注意してください。

### 1-6 転倒

- (1) ドライブロックバスより静かに取り出し、180°転倒する。



### 1-7 判定 (ゲル化法)

